

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	徳島大学
設置者名	国立大学法人徳島大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難		
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計				
総合科学部	人間文化学科	夜・通信	50			50	13			
	社会創生学科	夜・通信				50	13			
	総合理数学科	夜・通信				50	13			
	社会総合科学科	夜・通信			46	96	13			
医学部	医学科	夜・通信					55	105	19	
	医科栄養学科	夜・通信					19	69	13	
	保健学科 (看護学専攻)	夜・通信				8	74	132	13	
	保健学科 (放射線技術科学専攻)	夜・通信					79	137	13	
	保健学科 (検査技術科学専攻)	夜・通信					83	141	13	
歯学部	歯学科	夜・通信					25	75	19	
	口腔保健学科	夜・通信					17	67	13	
薬学部	薬学科	夜・通信					51	101	19	
	創製薬科学科	夜・通信			13	63	13			

工学部	建設工学科	夜・通信	50			50	13	
	機械工学科	夜・通信				50	13	
	化学応用工学科	夜・通信				50	13	
	生物工学科	夜・通信				50	13	
	電気電子工学科	夜・通信				50	13	
	知能情報工学科	夜・通信				50	13	
	光応用工学科	夜・通信				50	13	
	建設工学科	①夜・通信				50	13	
	機械工学科	①夜・通信				50	13	
	化学応用工学科	①夜・通信				50	13	
	生物工学科	①夜・通信				50	13	
	電気電子工学科	①夜・通信				50	13	
	知能情報工学科	①夜・通信				50	13	
	理工学部	理工学科			夜・通信		17	67
理工学科		①夜・通信		10	60	13		
生物資源産業学部	生物資源産業学科	夜・通信		24	74	13		
(備考) 総合科学部（人間文化学科、社会創生学科、総合理数学科）及び工学部（全学科）は平成28年度から学生募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

徳島大学公式ホームページ上に公表

<https://eweb.stud.tokushima-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>

閲覧方法：「開講学部」を選択し、「実務経験のある教員による授業」にチェックを入れ、検索。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	徳島大学
設置者名	国立大学法人徳島大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

徳島大学公式ホームページ上に公表
<https://www.tokushima-u.ac.jp/about/profile/executives/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常 勤	徳島県農林水産部長	2018. 4. 1 ~ 2020. 3. 31	理事（地域・産官学連 携担当） 副学長
非常勤	株式会社あわわ 会長	2019. 5. 1 ~ 2020. 3. 31	理事（広報担当） 副学長
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	徳島大学
設置者名	国立大学法人徳島大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、「徳島大学シラバス作成ガイドライン」を平成26年11月に定め、平成27年度より本ガイドラインに沿って作成されたシラバスを、徳島大学公式ホームページにおいてWeb上に公開している。</p> <p>現在のシラバス作成ガイドラインは、本学で開講されている全ての授業について、シラバスに記載が求められる項目及びその記載内容について示したもので、平成30年度に策定された「徳島大学における教育の内部質保証に関する方針」に従って定められている。</p> <p>シラバスは前年度の秋頃から作成し、年度開始時に公式ホームページ上で公開される。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>徳島大学公式ホームページ上に公表 シラバス(授業概要)</p> <p>https://www.tokushima-u.ac.jp/campus/syllabuslink/index.html</p> <p>教育・学生生活 シラバス(授業概要)「徳島大学シラバス作成ガイドライン」</p> <p>https://www.tokushima-u.ac.jp/campus/syllabuslink/guideline.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本学では、教育等の諸活動及びその結果生み出される成果の質を保証するため、「学生の学修成果の達成状況等について把握するための評価の方法・基準等」や「評価結果に基づいた学位プログラム内容等の改善計画の立案、改善計画に基づく教育等の諸活動の実施に関する方針」について『徳島大学における教育の内部質保証に関する方針』及び『徳島大学における教育の内部質保証に関する方針の実施に関するガイドライン』を平成30年11月に策定した。</p> <p>本ガイドラインには、「学生の学修成果の評価：授業・成績評価ガイドライン」として、本学の「教養教育院及び学部で開講している全ての授業科目、並びにそれを受講する学生及び科目担当教員による学生の学修成果」を評価の対象に、「評価の方法」、「評価を実施する手順」及び「評価結果に対する疑義の申し立て」について定めている。</p> <p>各部局では、本ガイドラインに沿って、履修の手引きが作成され、学修成果の評価が行われている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、『徳島大学における標準GPA導入に関するガイドライン』を平成26年11月に定め、運用している。

その目的は、以下のとおりである。

- (1) 学修の状況・成果の指標を示すことにより学生の学習意欲の向上を図る
 - (2) 適切な修学指導に役立つ
 - (3) 標準的な基準を定めることで、社会に対して教育の質を保証すると共に、教育の国際化に対応する
 - (4) 学修時間を確保し、単位制度の実質化を担保する
- また、換算式は以下のとおりである。

・GP (Grade Point) : 成績評価

90点以上	=	4
80点以上90点未満	=	3
70点以上80点未満	=	2
60点以上70点未満	=	1
60点未満	=	0

・GPA (Grade Point Average) : 学生が取得した科目の成績を集約した値

$$GPA = \frac{\text{(評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数) の合計}}{\text{評価を受けた各授業の単位数の合計}}$$

GPAは、学期と通算について算定する。

・GPC (Grade Point Class Average) : 教員が学生に付与した成績評価を集約した値

$$GPC = \frac{\text{(GP} \times \text{当該GPを受けた人数) の合計}}{\text{当該授業科目の履修登録者数}}$$

正規の手続きによる履修取り消し科目は含めない。

GPAは、学生に個別の成績票で開示され、学生への適切な修学指導（担任教員による履修指導や学修支援への活用や卒業に向けての学生の修学意欲向上への活用）に活用している。

また、GPCは、教育課程編成の振り返りに活用している。

<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>徳島大学公式ホームページ及び各学部の履修の手引き等で公表 (教育情報の公表：5 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画) https://www.tokushima-u.ac.jp/about/information/education_announce/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、三つのポリシーの見直しを随時行い、よりよい教育課程の運用に心がけている。</p> <p>また、ポリシーを具現化するため、「カリキュラムマップ (ナンバリング併記)」や「カリキュラムチェックリスト」を作成し、随時教育課程の見直しを行っている。</p> <p>三つのポリシーや「カリキュラムマップ」「カリキュラムチェックリスト」は公式ホームページ上で公開されている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>徳島大学公式ホームページ上に公表 (教育情報の公表：6 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準) https://www.tokushima-u.ac.jp/about/information/education_announce/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	徳島大学
設置者名	国立大学法人徳島大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/financial/financial/
収支計算書又は損益計算書	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/financial/financial/
財産目録	なし
事業報告書	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/financial/financial/
監事による監査報告(書)	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/financial/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:年度計画 対象年度:平成31年度)
公表方法: https://www.tokushima-u.ac.jp/about/concept/annual_plan/
中長期計画(名称:中期計画 対象年度:平成28年度~令和3年度)
公表方法: https://www.tokushima-u.ac.jp/about/concept/medium_plan/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.tokushima-u.ac.jp/about/concept/self_inspection/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.tokushima-u.ac.jp/about/concept/univ_accreditation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 総合科学部
教育研究上の目的（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/educational_purpose.html ）
（概要） 総合科学部は、人文、人間、社会、地域及び情報等の諸科学における専門知識や専門技能及び技術を身につけるとともに、専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し、問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的とし、人類の福祉と文化の向上に貢献することをめざす。
卒業の認定に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/5/ /diploma_faculty202004.pdf ）
（概要） 【27年度入学生まで】 次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。 1. 知識・理解 自分の専門分野を中心に文化、社会と自然に関する幅広い知識や技能を習得し、それらの多様性を理解することができる。 2. 汎用的技能 (1)正しい日本語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 (2)国際共通語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 3. 態度・志向性 豊かな人間性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 総合的な視点と知識を身につけ、現代社会のさまざまな問題を分析する能力と技能、情報発信能力を有し、地域社会の文化や生活環境の創造に貢献できる。 【28年度入学生から】 次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。 1. 知識・理解 (1)人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。 (2)多文化・異文化理解や専門的知識の体系化を通じて、自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解することができる。 2. 汎用的技能 (1)正しい日本語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 (2)外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 (3)多様な情報を収集・分析して適正に判断し、科学的思考性や論理的思考性

のもとに、身につけた専門技能・技術とモラルに則って効果的に活用することができる。

(4)問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理して、現代社会の諸問題や地域課題についての問題解決を図ることができる。

3. 態度・志向性

(1)豊かな人間性や協調性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。

(2)社会の一員としての意識の下に、社会問題や地域課題への取組を通じて、社会の発展のために積極的に関与できる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表
https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/3/ /curriculum_policy_faculty202004.pdf）

（概要）

【27年度入学生まで】

総合科学部では、豊かな人間力を基盤として、広い視野と深い専門性を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1、2年次における初年次教育の柱として「教養教育科目」を受講させ、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成し、持続可能な社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につけさせる。
2. 1、2年次を中心に配置された「学部共通科目」により、総合科学的なものの見方を身につけさせるとともに、専門的学びに必要な情報処理・外国語運用力など汎用的技能のスキルアップと国際感覚の向上、人間力・コミュニケーション力・論理的思考力、問題発見・解決能力の向上をめざす。さらに、「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。
3. 1年次を中心に「学科共通科目」を受講、将来専門分野に進んだ際に必要な基礎学力を修得させる。
4. 2年次から各自の関心に応じてコースに所属させる。2年次から3、4年次にかけて「コース専門科目」を体系的に履修させ、専門知識・能力を高めさせていく。講義科目を通して知識を深めさせるとともに、実習・実験・演習などの主体的な学びを通じて、問題発見・解決能力、情報発信能力を向上させる。また「自由選択科目」で、各自の関心に応じて知識の幅を広げさせる。
5. 3年次を中心に「総合科学テーマ科目」を受講させ、諸科学を統合し、現代社会の諸問題を柔軟に分析する手法を理解させる。
6. 4年次に「卒業研究」に着手させ、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

【平成28年度から】

総合科学部社会総合科学科では、専門分野の基礎的・専門的知識やスキルの修得と、広く社会から求められる汎用性の高い総合性の獲得に重きを置くという、二つの支柱からなるカリキュラムを編成している。後者の総合性については、これをテーマとする授業科目をコース横断的な「実践学習科目」に集約し、コース専門科目との連携を深めることで、社会が求める実践的な人材の養成をめざしている。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修させ、大学での学

びに主体的に取り組む態度を身につけさせるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、自然科学・イノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修させる。

2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得させるとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上を目指す。
3. 2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めさせるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につけさせる。また、「総合科学実践プロジェクト」やキャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につけさせる。
4. 2年次には、各自の問題関心に応じて「国際教養」、「心身健康」、「公共政策」、「地域創生」のいずれかのコースに所属させ、「コース入門科目」により各コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ばせる。
5. 2年次以降、専門分野の「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修させる。「コース基礎科目」は、専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルの修得を目的とし、「コース応用科目」は個々の課題・テーマに関わる講義科目・実習科目・演習科目から構成される。
6. 各自の関心に応じて多様な知識の幅を広げさせるため、「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により総合性を身につけさせる。
7. 4年次に「卒業研究」に着手させ、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。
8. グローバル化教育の一貫として、「総合科学実践プロジェクトJ」（海外体験プロジェクト）を展開する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表
https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/)

（概要）

■社会総合科学科

人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識や専門技能、技術を身につけるとともに、専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し、問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的としています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

グローバル化、少子高齢化、健康社会づくり、地域活性化などの社会的課題や地域課題に関心をもち、総合的な視点から問題解決を志向しようとする人。人文科学・人間科学・社会科学・地域科学・情報メディアの分野に関心をもち、21世紀型社会の創生に向けて貢献する進取の精神をもつ人

表現力

自分が伝えたいことを的確な表現を用いて相手に示すことのできる人

知識・教養

本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理系も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人

思考力・判断力

今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人

協働性

問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容	
国	語—文化・社会の理解に求められる読解と表現（作文）に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力
英	語—グローバル化社会に求められる読解と表現（作文）に関わる幅広い基礎知識及びコミュニケーション力
地歴・公民	—日本を含む世界の出来事に対する関心と、諸地域の地理・歴史についての基礎知識
数学、理科—理系分野の基礎的内容を理解し、論理的に考える力	

学部等名	医学部
教育研究上の目的（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/educational_purpose.html ）	
<p>(概要)</p> <p>医学部は、医療・栄養・福祉に係る教育・研究・診療を通じて社会に貢献できる人材育成を目的とする。</p> <p>■医学科</p> <p>医学科は、基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、保健・福祉活動を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与することができる人材の育成を目的とする。</p> <p>■医科栄養学科</p> <p>医科栄養学科は、「食律生命」の理念のもとに、医学を基盤とした医科栄養学研究を進展させるとともに、医科栄養学を通じて高度化する医療と健康の維持増進に資することができる人材の育成を目的とする。</p> <p>■保健学科</p> <p>保健学科は、人間性、科学性及び国際性を基盤に高度化・専門化する医療を支え、保健・医療・福祉において多様化するニーズに対応し、保健学の発展に寄与することができる人材の育成を目的とする。</p>	
卒業の認定に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/5/ /diploma_faculty202004.pdf ）	
<p>(概要)</p> <p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 医療・医学に関する基礎・専門分野の幅広い知識、高い教養、ならびに国際性を身につけている。 2. 汎用的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・医療や生命科学の基本的研究能力を修得している。 ・専門職としての基本的臨床技能を修得している。 ・他職種と連携しながら、医療チームの一員としての役割を果たすことができる。 3. 態度・志向性 専門職業人としての強い責任感、倫理観、ならびに生涯学び続ける意志を持つことができる。 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 基礎から臨床までの幅広い知識・技能を基盤とし、医療や社会のニーズや医療の最新情報に対応して自らの能力・専門性をさらに高めながら、医療を実践することができる。 	

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表
https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/3/_curriculum_policy_faculty202004.pdf）

（概要）

高い責任感、倫理観、ならびに生涯学び続ける意志を持ち、国際性と研究能力を兼ね備えながら、基礎から臨床までの幅広い知識・技能を基盤として医療を実践できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、人間・文化・社会・自然に係る広範で多様な基礎的知識と幅広い教養を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 専門教育では、基礎から臨床までの幅広い専門知識と技能を修得させるとともに、問題解決能力、コミュニケーション能力、倫理観、プロフェッショナリズムなどを含めた汎用的能力や態度・志向性を高めるための教育を行う。
3. 卒業研究や研究室配属によって、研究への関心を持ち、研究倫理に基づいて研究を遂行できる能力を修得させる。
4. 臨地・臨床現場での教育によって学習意欲を向上させながら、医療人として必要な基本的な知識、技能、態度の育成をはかる。
5. 職種間連携教育を通してチーム医療遂行に必要な能力の育成をはかる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表
https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/）

（概要）

医 学 部

高い責任感、倫理観、ならびに生涯学び続ける意志をもち、国際性と研究能力を兼ね備えながら、基礎から臨床までの幅広い知識・技能を基盤として医療を実践できる医療人へ成長できる人を求めています。

■医 学 科

医学科では、基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、保健・福祉活動を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与することができる人材を養成することをめざしています。そのため、医学科では、次のような人物を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

医学と生命科学に強い関心があり、自らを振り返りながら生涯学び続ける意欲があり、謙虚な態度で病める人に寄り添い、医学や医療の課題に真摯かつ熱心に対応できる人

知識・教養

本学科の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識や教養をもつ人

思考力・判断力

これまでに獲得した知識や教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人

表 現 力

自分が伝えたいことを相手に表現できる人

主 体 性

自分の意志と判断で責任感をもって行動できる人

協 働 性

問題解決のために、国籍や日本における各地域、世代、考え方にとらわれることなく、相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力できる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

数 学—基礎的知識・技法と数学的思考法

理 科—物理・化学・生物の基礎的な知識と科学的な自然観・探究心

国語・英語—地域社会や国際的分野において医療人として活躍できるための基礎的なコミュニケーション能力、読解力、思考力

地歴・公民—将来、医療人として活躍するために必要な常識的な知識や素養

■医科栄養学科

『食律生命』の理念のもとに、医学と連携した医科栄養学を通して、高度化する医療と人々の食生活の改善・健康の維持増進に資することができる、次のような人を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

栄養学・医学に強い関心があり、医科栄養学を生涯にわたり学ぶ目標をもつ人

知識・教養

本学科の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識や教養をもつ人

思考力・判断力

幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人

表 現 力

自分が伝えたいことを相手に表現できる人

探 究 力

問題解決や知識探究に意欲をもつ人

協 働 性

問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、相手の立場や多様性を尊重しながら互いに協力できる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

英 語—医学・栄養学の専門的な論文を将来読み、理解できるための読解力と表現力、コミュニケーション能力

数 学—数学の基本的な概念や原理・法則の理解、また計算力と論理的な思考法

理 科—自然科学を理解する基礎学力と科学的な自然観・探究心

そ の 他—食生活や医療に対する関心を持ち、理論的に科学を思考する能力と姿勢

■保健学科

保健・医療・福祉の分野において、人間尊重の倫理に立脚した高い使命感をもち、高度の専門知識・技術を基に、チーム医療、地域医療及び国際的な医療支援に貢献できる人を求めています。

◆看護学専攻

国際化、高度化する医療の発展を支える看護学の知識・技術を修得するために必要な基礎学力を備えるとともに、健康の維持・増進、生活の質を高めるにふさわしい潜在的資質を有する人を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

看護への志向性をもち、人間、生命、健康、医療、環境に強い関心とそれらを学ぶ意欲があり、自己の将来像について明確な目標をもっている人

協働性

お互いの立場や考えを尊重して良好な人間関係を築くことができる人

理解力・表現力

他者の思いや状況を理解し、自分の考えを適切に表現し伝えることができる人

知識・教養

保健・医療・福祉など専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※文科系・理科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人

思考力・判断力

高等学校で身につけた知識・教養をもとに、論理的な思考によって物事を判断し、課題を解決しようとする人

幅広い視野

自分たちが住む地域の保健医療や日常生活に関心を向け、国際的な視野をもちながら多角的に物事をとらえることのできる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

国語—文章を正しく理解する能力と自分の考えを適切に表現するための作文能力

地歴・公民—基礎学力を有し、社会と人の生活を関連づけて考える姿勢と能力

数学—基本的な知識と計算力及び論理的に思考する能力

理科—自然科学を理解する基礎学力と科学的に思考する能力

外国語—基礎的な読解力・作文力・コミュニケーション能力

◆放射線技術科学専攻

先進的な放射線科学を修得するために必要な理数系の基礎学力に優れ、医学に対する幅広い知識の修得を積極的に行い、医療人としての豊かな人間性とチームワーク精神を自ら高め、診療放射線技師資格取得をめざす明確な目的意識をもった、医療の発展に寄与できる資質を有する人を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

放射線科学、生命、健康、医療に対する強い関心とそれらを学ぶ意欲があり、自己の能力を高めるための努力を惜しまない人

思考力・判断力

自然科学を理解する基礎学力に優れ、論理的な思考によって物事を理解し、適切な判断ができる人

応用力

将来の技術革新に対応できる人

協働性

お互いの立場や考えを尊重して良好な人間関係を築くことができる人

知識・教養

本専攻の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人

幅広い視野

国際的な視点から地域社会の視点に至るまで、幅広い視野で課題の解決に取り組める人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

数学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解、計算力及び論理的に思考する能力

理科—「物理基礎」、「物理」における内容の理解、自然科学を理解する

<p>基礎学力と科学的に思考する能力 外国語、国語－基礎的な読解力・作文力・コミュニケーション能力 地歴・公民－将来、地域や国際社会で医療人として、また、良識をもった人間として活躍するために必要な知識や素養</p>
<p>◆検査技術科学専攻 医学ならびに医療に対する関心が高く、国際的な視野と豊かな人間性を持ち、医療人として臨床検査技術を身につけ、応用できる能力を育成するために必要な学力を有する人を求めています。</p> <p>●求める人物像</p> <p>関心・意欲・態度 生命科学や医学、医療に強い関心があり、自分で明確な目標をもって意欲的に学習に取り組める人</p> <p>探 究 力 好奇心旺盛で、自分の興味があることについて徹底的に探究しようとする人</p> <p>表 現 力 集団の中で自分の意見をはっきりと伝えることができる人</p> <p>知識・教養 高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 自分のもっている知識や教養をもとに考慮して、客観的に適切な判断ができる人</p> <p>協 働 性 問題解決のために対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容</p> <p>理 科－「化学」、「生物」及び「物理」の幅広い知識と科学的な探究心 数 学－「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解、基本的な概念や原理・法則を理解する能力と数学的な思考力</p> <p>外国語、国語－地域社会や国際的分野において活躍できるための基礎的なコミュニケーション能力・読解力</p> <p>地歴・公民－将来、良識ある社会人として地域で活躍するために必要な基本的な知識と素養</p>

<p>学部等名 歯学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/educational_purpose.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>歯学部は、口腔と全身の健康に係る教育、研究、診療を通じて、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。</p> <p>■歯学科 歯学科は、歯科領域にとどまらない広い知識と最新の治療技術を身につけるとともに、医療人として必要な倫理を備えた歯科医師の育成をめざす。</p> <p>■口腔保健学科 口腔保健学科は、口腔保健及び福祉の専門的立場から健康長寿の推進に貢献し、専門分野の教育、研究及び臨床における指導的役割を担う人材の育成をめざす。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/5/ /diploma_faculty202004.pdf)</p>
<p>(概要) 次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 歯科専門職に求められる知識と技能を有する。 2. 汎用的技能 患者・家族やチーム医療関係者と良好なコミュニケーションができる。 3. 態度・志向性 専門職業人として好ましい態度、習慣と倫理観を持って行動できる。 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 医療に関して高い関心を持ち、諸問題について自ら学び、課題解決にあたることができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/3/ /curriculum_policy_faculty202004.pdf)</p>
<p>(概要) 歯学部では豊かな教養と高い倫理性を基盤として、歯科保健医療に関する高い専門能力を備え、健康長寿の推進に貢献できる人材の育成をめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育においては、専門分野を理解するために必要な基礎科学の知見を理解させるとともに、様々な体験を通じて人間力や社会性を身につけることをめざし、臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させ、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。 2. 歯科基礎医学系科目群においては、最新の歯科医療を理解するための基盤となる専門知識を修得させ、さらに問題の発見と解決に能動的に取り組むためのリサーチマインドを涵養するための科目を配置する。 3. 臨床歯学系科目群においては、最新の歯科医療を実施するための高度な専門知識と技能を修得させるための科目を配置する。 4. チーム医療に必要な幅広い知識および社会から求められる最新の口腔領域の知識・技能を修得させるために、関連する臨床医学系科目群と新領域の専門科目を配置する。 5. 希望者では選択科目の履修により社会福祉士国家試験受験資格を得ることができるよう配慮した科目編成を行う。 6. 学んだ知識・技能・態度・教養を統合するために、臨床実習を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/)</p>
<p>(概要) 歯 学 部 豊かな人間性を基盤として、医療・保健・福祉を通して健康長寿の推進への情熱と、教育・研究を通して人類の知を発展させる意欲にあふれた人材に成長できる人物を求めています。</p> <p>■ 歯 学 科 生命科学に興味と情熱をもち、人間的な優しさをそなえた歯科医師・歯学研究者をめざす、次のような人物を求めています。</p> <p>● 求める人物像 関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の立場を理解できる豊かな人間性をもつ人 ・歯科医療の発展への情熱をもち、生涯にわたって貢献しようと考えている人

- ・歯科医療で国際的な活動をしたいと思っている人
- ・歯科医学に関係する研究に関心をもち、新しい発見や治療法の開発に貢献したいと思っている人

表 現 力

自分の意見や考えを相手に伝えることができる人

知識・教養

本学科で歯科医学を学び、生涯にわたって学びを継続するために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識と教養をもつ人

思考力・判断力

広い視野と論理的思考をもって行動できる人

協 働 性

オープンマインドな姿勢で他者と協力して課題に取り組める人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

英語、国語—新聞や書籍（英文も含む）等を積極的に熟読し、読解力や論理的思考力を身につける。

理 科—理科は化学、物理および生物の知識がすべて必要となり、大学受験で選択した以外の理科の科目についても修得が必要です。合格者には、入試で選択しなかった科目を学習してもらうため、入学までに取り組むべき課題を提供する予定です。

数 学—高等学校等で履修した数学を再確認し、数学的思考ができるようにする。

地歴・公民—社会全般（高校で履修しなかった教科も含む）にわたって興味をもち、世界的視点から日本の文化、思想、制度、歴史及び地理について考察できるようにしておく。

■口腔保健学科

人間的な優しさをもち、口腔保健及び福祉の専門知識と技能を身につけ健康長寿の推進に貢献できる、次のような人物を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

- ・学習意欲・好奇心が旺盛で、チャレンジ精神のある人
- ・歯や口の健康に興味をもち、歯科の病気の予防に貢献したいと考える人
- ・高齢者や障害者などに関する現代社会・地域社会の諸問題を見据え、その解決に貢献したいと考える人

表 現 力

自分の考えや意見を論理的に説明できる人

知識・教養

本学科の専門分野を学び、将来にわたって学びを継続するために、高等学校等で修得すべき※全領域の科目にわたる知識・教養をバランスよくもつ人

思考力・判断力

今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人

協 働 性

チーム医療における問題解決のために、職種や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

英 語—基礎的なコミュニケーション能力や読解力を身につけておく。

理 科—理科の学習を通じて自然科学に深い関心をもち、その基礎的な考え方

国語	を身につけておく。 語—国語の学習を通じて、現代人としての常識的な知識とともに、日本語による論理的な記述力やコミュニケーション能力を身につけておく。
数学	単に公式を暗記し問題に当てはめるだけではなく、論理的な思考を展開するために必要な理解力と応用力を身につけておく。
地歴・公民	—地歴・公民に広く関心をもち、多様な価値観や世界観、考え方があることを理解しておく。

学部等名	薬学部
教育研究上の目的（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/educational_purpose.html ）	
(概要)	薬学部は、生命科学を基盤とする薬学を研究・教授することを通じて、薬の専門家としての知的・技術的基盤形成に必要な教育と深く医療に関わる使命感と倫理観を持たせる教育を行い、以て、人類の福祉と健康に貢献する人材を育成することを目的とする。 ■薬学科 薬学科は、臨床の場で指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師養成のための専門教育を行うことを目的とする。 ■創製薬科学科 創製薬科学科は、創薬・製薬に関する高い研究能力や専門的薬学知識を身につけた研究者育成のための専門基礎教育を行うことを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/5/_/diploma_faculty202004.pdf ）	
(概要)	次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。 1. 知識・理解 人類の福祉と健康に関わる多様な分野で活躍できる薬の専門家としての専門的知識を修得している。 2. 汎用的技能 医療、科学、社会の発展・高度化に対応できる薬の専門家としての実践能力を修得している。 3. 態度・志向性 高い倫理観、豊かな人間性、柔軟な科学的思考とコミュニケーション能力を有し、薬の専門家として責任を持った行動を取ることができる。 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 医療の進歩に対応できる課題発展能力・問題解決能力を修得し、生涯にわたり学習意欲、未踏分野への開拓精神を維持向上させ、薬学の発展に寄与できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/3/_/curriculum_policy_faculty202004.pdf ）	
(概要)	薬学部では、指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者・教育者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。 1. 薬学部の新たな教育理念である「インタラクティブYAKUGAKUJIN（薬学が関係する諸分野の連携を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材）の育成」に則り、自らの能力を客観的に把握でき、物事を俯瞰的に捉え、進取

の気風のもとに自立して未知の課題を解決できる人材を養成する。これらを通じて、持続可能な社会づくりの担い手たる資質も身につけさせる。

2. 教養教育では、幅広い教養および基礎科学の知識や柔軟な科学的思考、そして生涯にわたり学び続ける姿勢を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。

3. 専門教育では、講義、実習、演習および卒業研究を通じて、医薬品の性質や使用に関する知識と技能、医薬品の創製に関する高度な専門的知識と技能を修得させるとともに、課題発展能力、問題解決能力、高度化する医療や創薬の進歩に対応できる能力を身につけさせる。

4. 6年制学科（薬学科）では、4年次の実務実習事前学習を経て薬学共用試験に合格した学生に、5年次において医療薬学・病院実習および薬局実習を履修させる。4年制学科（創製薬科学科）では、学部と大学院の一貫教育・研究を行う。これらを通じて、指導的役割を担う薬剤師としての高い能力や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者・教育者を養成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表

https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/)

（概要）

薬学部

薬学部の教育方針は、多様な薬学分野を基盤とした幅広い知識と技能を身につけ、薬学を含む種々の職能領域と相互連携しうる能力をもち、自ら活躍できる場を積極的に開拓できる可能性をもった人材（インタラクティブ YAKUGAKUJIN）を育成することです。したがって、徳島大学薬学部では既成概念にとらわれない柔軟な思考能力をもち、向学心に満ち、未踏分野の開拓精神に溢れた人材を求めています。入試では、アドミッション・ポリシーにあった人材を募集し、各学科の教育理念に応じたカリキュラムのもとで教育を行います。

■薬学科

薬学を基盤とし、薬剤師、薬学研究者・教育者として、薬物療法およびそれに資する科学の発展を通じた医療全体の向上に、情熱、倫理観、使命感をもって貢献できる人材を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

薬学にかかわる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり、自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人

探究力

自分が関心をもったことを深く掘り下げて探究し、その中から新たな問題・課題を発見できる人

表現力

自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に、相手の視点に立って表現できる人

知識・教養

薬学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※基礎的かつ広範な知識や教養を有する人

思考力・判断力

将来、薬物療法の専門家として、修得した知識・教養・技能を基盤に、思考を深化、展開させ、科学的エビデンスに基づいて未知の課題に対して適切な解を判断できる素養を有する人

協働性

将来、薬物療法の専門家として、多職種の人と協働でき、活躍できる素養を有する人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

理 科—理系科目については、薬学を学ぶ上での基礎的な知識として、化学に加え、物理と生物の両科目の履修を希望

数 学—理系数学についての基本的な知識・技能と論理的思考法

英語、国語—将来、薬学部で学んだ知識や成果を論理的に表現し、さらにそれらを世界に発信する必要がある。したがって、英語・国語の基礎的な読解力、表現力、発信力、コミュニケーション能力を身につけておく。

そ の 他—将来、薬剤師、薬学研究者・教育者として活躍するためには、上記以外の科目もおろそかにせず、また部活やボランティア等、様々な活動に積極的に取り組むことで、幅広い視野と高い倫理観、豊かな人間性を育んでもらいたい。

■創製薬科学科

薬学を基盤とし、創薬研究者、薬学研究者・教育者として、医薬品創製およびそれに資する科学全体の向上に、情熱、倫理観、使命感をもって貢献できる人材を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

薬学にかかわる広範な領域に強い関心とそれらの学びに対する意欲があり、自ら未踏分野を開拓しようとする姿勢・態度を有する人

探 究 力

自分が関心をもったことを深く掘り下げて探究し、その中から新たな問題・課題を発見できる人

表 現 力

自分が伝えたいことを適切かつ簡潔に、相手の視点に立って表現できる人

知識・教養

薬学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※基礎的かつ広範な知識や教養を有する人

思考力・判断力

将来、医薬品創製・薬科学の専門家として、修得した知識・教養・技能を基盤に、思考を深化、展開させ、科学的エビデンスに基づいて未知の課題に対して適切な解を判断できる素養を有する人

協 働 性

将来、医薬品創製・薬科学の専門家として、他分野の人と協働でき、活躍できる素養を有する人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

理 科—理系科目については、薬学を学ぶ上での基礎的な知識として、化学に加え、物理と生物の両科目の履修を希望

数 学—理系数学についての基本的な知識・技能と論理的思考法

英語、国語—将来、薬学部で学んだ知識や成果を論理的に表現し、さらにそれらを世界に発信する必要がある。したがって、英語・国語の基礎的な読解力、表現力、発信力、コミュニケーション能力を身につけておく。

そ の 他—将来、創薬研究者、薬学研究者・教育者として活躍するためには、上記以外の科目もおろそかにせず、また部活やボランティア等、様々な活動に積極的に取り組むことで、幅広い視野と高い倫理観、豊かな人間性を育んでもらいたい。

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/educational_purpose.html ）
<p>（概要）</p> <p>工学部は、次の各号に定める教育を通じ、科学技術の進歩が人類と社会に及ぼす影響について、強い責任感をもって探求できる自律的技術者・研究者を育成することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人格と教養及び自発的意欲の育成 2. 工学の基礎知識による分析力と探求力の育成 3. 専門の基礎知識による問題解決力と表現力の育成 4. 社会の変化に柔軟に対応できる自律的応用力創造力の育成
卒業の認定に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/5/_diploma_faculty202004.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 文化、社会と自然に関して幅広い知識と教養を有する 工学基礎に関する知識を有する 工学の各専門分野における基礎知識と応用力を有する 2. 汎用的技能 技術者として必要な論理的思考力を有する 他者との円滑なコミュニケーション能力を有する 3. 態度・志向性 社会の一員として必要とされる倫理観を有する 生涯にわたって自律的・継続的な学修能力を有する 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 自立して社会の諸問題に立ち向かい、率先してその解決にあたる主体的課題解決力を有する
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/3/_curriculum_policy_faculty202004.pdf ）
<p>（概要）</p> <p>工学部では、豊かな教養を基盤として、工学基礎と専門に関する知識を応用して社会に貢献できる、計画力・企画力、課題解決能力・実行力、倫理観を身につけた技術者を育成するために、以下の様なカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1、2年次における導入教育の柱として「教養教育科目」を受講させ、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけさせた上で、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得させる。また、さまざまな体験を通じて社会性を高めさせるとともに、情報処理や外国語運用の基礎力を養成する。 2. 2年次を中心に配置された「学部共通科目」により工学の基礎知識を修得させ、事象や課題を科学的に解析できる分析力と探究力の養成をめざす。さらに「キャリア教育科目」を受講させ、卒業後の社会的・職業的自立に向けての基盤を段階的に整える。 3. 専門基礎科目の学修を通じて、基本的な理論とともに演習問題を解ける知識を修得させる。 4. 専門応用科目の学修を通じて、課題解決へ応用できる知識を修得させる。 5. 実験・実習科目や創成科目を通じて、計画力・企画力や課題解決能力・実行力の基礎を養成する。 6. 専門的課題について問題解決能力を有する技術者の育成を目指し、1つの研究

テーマについて1年間卒業研究を行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： ）
（概要） 平成28年度から学生募集停止

学部等名 理工学部
教育研究上の目的（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/educational_purpose.html ）
（概要） 理工学部は、自立した一人の人間として社会の中で力強く生きる力(知力、社会・対人関係力、自己制御力)及び社会や世界の諸問題に対する鋭敏な知覚力を有し、科学技術を通じて高い倫理観をもって解決に取り組む能力を修得させることを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/5/_diploma_faculty202004.pdf ）
（概要） 次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。 1. 知識・理解 (1) 数学および自然科学の確かな知識に基づき、複数の理学と工学専門分野を組み合わせ問題と解決できる。 (2) 自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。 2. 汎用的技能 (1) 情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。 (2) 自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。 3. 態度・志向性 (1) 社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。 (2) 自ら考え、行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。 4. 統合的な学習経験と創造的思考力 (1) 地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。 (2) 世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/3/_curriculum_policy_faculty202004.pdf ）
（概要） 理工学部では、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。 1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。 2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。 3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。

<p>4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/)</p>
<p>■理工学科</p> <p>自ら課題を探究し、未知の問題に対して俯瞰的視野から総合的な判断を下すことができる能力を兼ね備え、科学技術のイノベーションに柔軟に対応しながらグローバルに活躍できる理工系人材を養成します。そのため、理工学部理工学科では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像</p> <p>関心・意欲・態度 科学技術の両輪となる理学と工学を融合した理工学の各専門分野に強い関心と学びに対する意欲があり、明確な目標をもっている人</p> <p>表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる基礎的な知識や教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに、広い視野で論理的に思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>主体性・創造性・協働性 多様な経験をもとに、主体的に創造性豊かな発想ができる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容</p> <p>数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力</p> <p>理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」における内容の理解と科学的思考力</p> <p>国語、英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力</p> <p>そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、倫理、政治・経済、現代社会などの素養と社会事象に対する関心や探究心</p>

<p>学部等名 生物資源産業学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/educational_purpose.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>生物資源産業学部は、人類が抱える生物資源と生命の諸問題を理解し、国際的視野に立って解決できる能力を持つ人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/5/ /diploma_faculty202004.pdf)</p>

(概要)

次の能力を有すると認められた者に学士の学位を授与する。

1. 知識・理解
幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有する。
2. 汎用的技能
生物資源の生産・利用に関わる生命現象を総合的に理解し、その研究手法を体系的に修得し、応用できる。
3. 態度・志向性
生物資源産業に関する商業的基盤を理解し、グローバルな視点から地域社会の課題を考える事ができる。
4. 総合的な学習経験と創造的思考力
生命工学、食料加工、生物資源生産に関する専門知識を有し、生物資源を利用した新たな産業の創出に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表
https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/1/3/9/8/6/3/ /curriculum_policy_faculty202004.pdf）

(概要)

生物資源産業学部では、教育目標を達成するため、以下の特色あるカリキュラムを編成している。

1. 1次製品の生産から加工、製品開発・販売、機能食品・医薬品の開発に関する先端技術を理解し、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため、アグリサイエンス、フードサイエンス、ヘルスサイエンスに関する専門教育と産業の創出に必要な経済・経営に関する専門教育を行う。
2. 生物資源の生産、加工・応用、製品化を総合的に理解するために必要な基礎教育を重視し、1・2年次に行われる学科共通科目（講義9科目18単位）と実習・演習科目（3科目4単位）を必修化する。また、推薦入学による農業系高校出身学生の基礎教育では、高大接続科目や自然科学入門を1年次に履修させることにより、基礎学力の修得を徹底する。
3. 生物資源を活用した産業の創出に必要な経済・経営に関する専門教育を重視し、経済・経営関連科目として「経済学基礎」、「経営学入門」、「地域資源経済学」、「フードシステム論」、「知的財産の基礎と活用」、「アグリビジネス起業論」、「食品マーケティング論」（7科目14単位）、実習演習（「起業体験実習」、「商品開発プロジェクト演習」（2単位）の必修科目と選択科目である「国際農業論」、「ブランド戦略論」（2科目4単位）を開講するとともに、生物資源の利用、産業化に関する科目（「生物資源産業学概論」、「生物資源産業学実習」、「食品・生物資源関連法規」、「生物資源産業学特別講義」）を必修化し、生物資源による新たな産業の創出に必要な基礎知識を涵養する。
4. 持続可能な生物資源の生産と応用には、生物生産現場の体験が重要であるとの認識から、生物生産現場の特性が体感できる実習（「生物生産フィールド実習」）を1年次に必修科目として実施する。
5. 農学、工学、医学、栄養学及び薬学分野が融合し、かつ安全性や環境にも配慮した先端技術による生物資源の生産、応用に関する教育を重視する。
6. 生物資源の生産管理や分析には、情報処理の知識が不可欠であるため、教養教育科目である基礎数学（「統計学」、「微分積分学」）と学科共通科目である「生物情報処理学」、「コンピュータプログラミング演習」を必修科目とし、情報処理能力を修得する教育を実施する。
7. 「キャリアパス」、「起業体験実習」、「商品開発プロジェクト演習」、「生物資源産業学特別講義」、「技術者倫理」や「インターンシップ」、学外での卒業研究によって、現場での実践力を養う教育を実施する。
8. グローバル化を見据え、専門英語については、「生物資源産業学基礎英語」と

<p>「生物資源産業学専門英語」を必修化し、英語運用能力と国際感覚を高めるための実践的教育を実施する。</p> <p>9. 生物資源の持続的活用と安全な食品生産、創薬のため、「技術者倫理」（3年後期）を必修化するとともに、コース専門科目においても技術者倫理・生命倫理に関する内容を講義に組み込む。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/admission/acceptance_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>■生物資源産業学科 生物資源産業学部では、バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産、医薬、食品としての有効利用に関連する幅広い知識、国際的に通用する専門性、バイオ産業創出に必要な起業マインドをもった人材の育成を目的としています。そのため、生物資源産業学部では、次のような人物を求めています。</p> <p>●求める人物像</p> <p>関心・意欲・態度 バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標をもっている人</p> <p>探 究 力 自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人</p> <p>表 現 力 自分が伝えたいことを相手の視点に立って適切に表現できる人</p> <p>知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき※理科系・文科系にわたる知識・教養をもつ人</p> <p>思考力・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>協 働 性 問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人</p> <p>※高等学校等で修得すべき具体的な内容</p> <p>理 科—「化学、化学基礎」「生物、生物基礎」「物理、物理基礎」から2科目以上に渡る内容の理解と、自然環境で起こっている現象やその問題解決に必要な知識・教養。特に、入学後の学修に備えるため、化学に関する科目は実験データの解析力などを踏まえて、着実な修得をはかること。</p> <p>数 学—「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」における内容の理解と応用力</p> <p>英 語—国際的な専門分野を学ぶために必要な読解力と基礎的な運用能力</p> <p>国 語—様々な文献の読解力と、自分が伝えたいことを表現できる基礎的な文章力</p> <p>地歴・公民—地歴・公民における基礎的内容の理解</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 (教育情報の公表：2 教育研究上の基本組織) https://www.tokushima-u.ac.jp/about/information/education_announce/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	7人	—					7人
大学院	—	221人	161人	78人	204人	0人	664人
附属病院	—	8人	11人	57人	106人	0人	182人
その他	—	34人	33人	15人	32人	0人	114人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			810人				810人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 (教育情報の公表：3 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績) https://www.tokushima-u.ac.jp/about/information/education_announce/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学部で教育を行う全専任教員を対象として、教育技術向上や認識共有のためのFDを実施しており、平成30年度に開催したFDの参加実績は、562名で教員数（634名）における割合は88.64%（ただし、病院・特任・センター職員は除く。）であった。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合科学部	170人	182人	107%	680人	777人	114%	人	人
医学部	288人	292人	101%	1380人	1432人	103%	16人	3人
歯学部	55人	55人	100%	300人	293人	97%	3人	人
薬学部	80人	89人	111%	400人	438人	109%	人	人
理工学部 (昼間コース)	550人	552人	100%	2200人	2190人	99%	35人	30人
理工学部 (夜間主コース)	45人	45人	100%	180人	187人	103%	人	人
生物資源産業学部	100人	105人	105%	400人	402人	100%	2人	2人
合計	1288人	1320人	102%	5540人	5719人	103%	56人	35人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合科学部	264人 (100%)	30人 (11.4%)	199人 (75.4%)	35人 (13.3%)
医学部	302人 (100%)	43人 (14.2%)	135人 (44.7%)	124人 (41.1%)
歯学部	52人 (100%)	4人 (7.7%)	12人 (23.1%)	36人 (69.2%)
薬学部	77人 (100%)	33人 (42.9%)	43人 (55.8%)	1人 (1.3%)
工学部	596人 (100%)	329人 (55.2%)	251人 (42.1%)	16人 (2.7%)
合計	1291人 (100%)	439人 (34.0%)	640人 (49.6%)	212人 (16.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 徳島大学公式ホームページ上に公表 (主な進学先) https://www.tokushima-u.ac.jp/about/information/education_announce/course.html (主な就職先) https://www.tokushima-u.ac.jp/career/career_path/syusyokusaki/ (備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 本学では、「徳島大学シラバス作成ガイドライン」を平成26年11月に制定し、平成27年度より本ガイドラインに沿って作成されたシラバスを、徳島大学公式ホームページにおいてWeb上に公開している。 現在のシラバス作成ガイドラインは、本学で開講されている全ての授業について、シラバスに記載が求められる項目及びその記載内容について示したもので、平成30年度に策定された「徳島大学における教育の内部質保証に関する方針」に従って定められている。 シラバスは前年度の秋頃から作成し、年度開始時に公式ホームページ上で公開される。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 本学では、教育等の諸活動及びその結果生み出される成果の質を保証するため、「学生の学修成果の達成状況等について把握するための評価の方法・基準等」や「評価結果に基づいた学位プログラム内容等の改善計画の立案、改善計画に基づく教育等の諸活動の実施に関する方針」について『徳島大学における教育の内部質保証に関する方針』及び『徳島大学における教育の内部質保証に関する方針の実施に関するガイドライン』を平成30年11月に策定した。
 本ガイドラインには、「学生の学修成果の評価：授業・成績評価ガイドライン」として、本学の「教養教育院及び学部で開講している全ての授業科目、並びにそれを受講する学生及び科目担当教員による学生の学修成果」を評価の対象に、「評価の方法」、「評価を実施する手順」及び「評価結果に対する疑義の申し立て」について定めている。
 各部局では、本ガイドラインに沿って、履修の手引きが作成され、学修成果の評価が行われている。
 本学では、三つのポリシーの見直しを随時行い、よりよい教育課程の運用に心がけている。
 また、ポリシーを具現化するため、「カリキュラムマップ(ナンバリング併記)」や「カリキュラムチェックリスト」を作成し、随時教育課程の見直しを行っている。
 三つのポリシーや「カリキュラムマップ」「カリキュラムチェックリスト」は公式ホームページ上で公開されている。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
総合科学部	人間文化学科	131 単位	有・無	年間 48 単位
	社会創生学科	131 単位	有・無	年間 48 単位
	総合理数学科	131 単位	有・無	年間 48 単位
	社会総合科学科	130 単位	有・無	年間 48 単位
医学部	医学科	203 単位	有・無	1 年次は 年間 48 単位
	医科栄養学科	126 単位	有・無	1 年次は 年間 48 単位
	保健学科 看護学専攻	128 単位	有・無	教養教育科目は 年間 45 単位
	保健学科 放射線技術科学専攻	135 単位	有・無	教養教育科目は 年間 45 単位
	保健学科 検査技術科学専攻	128 単位	有・無	教養教育科目は 年間 45 単位
歯学部	歯学科	210 単位	有・無	1 年次 48 単位 2 年次 48 単位(相当) 3 年次 45 単位(相当) 4 年次 45 単位(相当) 5 年次 40 単位(相当) 6 年次 25 単位(相当)
	口腔保健学科	128 単位	有・無	1 年次 48 単位(相当) 2 年次 48 単位(相当) 3 年次 48 単位(相当) 4 年次 25 単位(相当)

薬学部	薬学科	186 単位	㊦・無	1・2 年次は 半期 24 単位
	創製薬科学科	132 単位	㊦・無	1・2 年次は 半期 24 単位
工学部 (昼間コース)	建設工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	機械工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	化学応用工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	生物工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	電気電子工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	知能情報工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	光応用工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
工学部 (夜間主コース)	建設工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	機械工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	化学応用工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	生物工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	電気電子工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
	知能情報工学科	133 単位	㊦・無	年間 48 単位
理工学部 (昼間コース)	理工学科	131 単位	㊦・無	年間 48 単位
理工学部 (夜間主コース)	理工学科	131 単位	㊦・無	年間 48 単位
生物資源産業学部	生物資源産業学科	125 単位	㊦・無	半期 24 単位 年間 48 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)	公表方法：GPA は、学生に個別の成績票で開示され、学生への適切な修学指導 (担任教員による履修指導や学修支援への活用や卒業に向けての学生の修学意欲向上への活用) に活用している。 また、GPC は、教育課程編成の振り返りに活用している。			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 (学生の学修に関する実態調査) https://www.tokushima-u.ac.jp/campus/life_survey/gakushujittaichosa/			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表
(教育情報の公表：7 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境)
https://www.tokushima-u.ac.jp/about/information/education_announce/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
総合科学部	人間文化 学科	535,800 円	円	円	
	社会創生 学科	535,800 円	円	円	
	総合理数 学科	535,800 円	円	円	
	社会総合 科学科	535,800 円	282,000 円	3,300 円	学生教育研究災害傷害保険
医学部	医学科	535,800 円	282,000 円	4,700 円	学生教育研究災害傷害保険
	医科栄養 学科	535,800 円	282,000 円	3,300 円	学生教育研究災害傷害保険
	保健学科	535,800 円	282,000 円	3,300 円	学生教育研究災害傷害保険
歯学部	歯学科	535,800 円	282,000 円	4,800 円	学生教育研究災害傷害保険
	口腔保健 学科	535,800 円	282,000 円	3,370 円	学生教育研究災害傷害保険
薬学部	薬学科	535,800 円	282,000 円	4,700 円	学生教育研究災害傷害保険
	創製薬科 学科	535,800 円	282,000 円	3,300 円	学生教育研究災害傷害保険
工学部 (昼間コ ース)	建設工学 科	535,800 円	円	円	
	機械工学 科	535,800 円	円	円	
	化学応用 工学科	535,800 円	円	円	
	生物工学 科	535,800 円	円	円	
	電気電子 工学科	535,800 円	円	円	
	知能情報 工学科	535,800 円	円	円	
	光応用工 学科	535,800 円	円	円	
工学部 (夜間主 コース)	建設工学 科	267,900 円	円	円	
	機械工学 科	267,900 円	円	円	
	化学応用 工学科	267,900 円	円	円	
	生物工学 科	267,900 円	円	円	
	電気電子 工学科	267,900 円	円	円	
	知能情報 工学科	267,900 円	円	円	
理工学部 (昼間コ ース)	理工学科	535,800 円	282,000 円	4,140 円	学生教育研究災害傷害保険等
理工学部 (夜間主 コース)	理工学科	267,900 円	141,000 円	2,240 円	学生教育研究災害傷害保険等
生物資源 産業学部	生物資源 産業学科	535,800 円	282,000 円	4,140 円	学生教育研究災害傷害保険等

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生の学修意識や学修に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として、学生の学修に関する実態調査を実施している。</p> <p>また、学生が支障なく大学生活を送ることができるよう学習・生活・進路等について助言・指導を行うため、各学部の実情に応じて担任制を導入し、担任教員は学生の出席や成績の状況に留意し、欠席の多い者、成績不振者等、修学に支障のある学生について早期に認識して対処している。</p> <p>附属図書館（分館含む。）には、自学自習のスペースからパソコンを利用しながらグループ学習を行うスペース（ラーニング・コモンズ）を設けるなど学生の能動的な学習環境を整備している。さらに、日々の授業の予習や 課題における疑問点、勉強の仕方・レポートの書き方、また学生生活に関わることなどまで、さまざまな相談に対して、教員及び大学院生がサポートを行う「SSS（Study Support Space）」を行うなど、多様な学修支援を実施している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>高等教育研究センターキャリア支援部門において、キャリア教育やキャリアカウンセラーによる就職相談、就職活動に関するガイダンス・セミナー、学内での合同企業説明会、企業提携によるインターンシップ等を実施している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>キャンパスライフ健康支援センターに3部門（保健管理部門、総合相談部門、アクセシビリティ部門）を設置し、各部門の連携協働及び教職協働により、学生の健康の保持増進及び相談支援、障がい学生の修学支援に関する専門的業務を一体的かつ総合的に行うことで、良好な修学環境を確保している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：徳島大学公式ホームページ上に公表 https://www.tokushima-u.ac.jp/about/information/education_announce/
--